# 二年学年だより

No.　1　　４ 月号

令和５年４月発行

２年学年主任

中央高校の桜も、始業式まで我慢ができず、３月末に満開となり、４月に入ると桜吹雪が見られるようになりました。今では緑が目立つようになっています。新型コロナウイルス感染症への対応も少しずつ変わり、以前の日常に少しずつ戻りつつある現在、君たちにとってとても重要となるこの一年、この二年を、君たちはどう生きるのでしょうか。

３月に行われた WORLD BASEBALL CLASSIC 。日本の野球に心揺さぶられ、はらはらどきどきしながら観戦した人も多数いたのではないかと思います。世界一という栄冠を勝ち取った「侍 JAPAN」。たくさんの感動を与えてもらい、改めてスポーツの素晴らしさに触れることができました。

チームの勝利のために、ひたむきな戦いを続けることは素晴らしい。その戦いのほんの一瞬が、一生心に残る名場面となる。そんな瞬間をたくさん見てきました。例えばサッカーワールドカップの「三笘の１ミリ」。例えば前回 WBC で優勝した 2009 年の不振に陥っていたイチロー選手の決勝での「センター前ヒット」。たくさんの名場面を通し、たくさんのことを学んできたように思います。

２週間ほどで行われたこの大会。突然組み合わせが変更されるといったサプライズも含め、たくさんの思い出深い場面がありました。例えば準決勝のメキシコ戦の最終回、２塁打を打った後にチームを鼓舞する大谷選手の姿。その後、四球を選び、次の村上選手を指さしながら「お前が決めろ」というメッセージを送った吉田選手の姿。その中でも、私が一番印象に残っていること、それはチームの「結束力」です。間違いなく世界一であったと思います。

ダルビッシュ有選手は、東北高校で甲子園に出場し、活躍。日本ハムファイターズを経て、大リーグに挑戦し、活躍をしている投手です。2009 年の WBC の決勝ラウンドではクローザー（最終回に押さえを担当する役割の投手）として、世界一の立役者となりました。阪神ファンの私にとっては、クローザーが藤川球児選手ではなかったことが少し寂しい思い出ですが。

今回のメンバーでは最年長で、大リーグでも素晴らしい実績を残している彼が、宮崎で行われた合宿に初日から参加するということに、私はまず驚きました。彼ほどのベテランなら、自分のペースでゆっくりと調整すると思っていたからです。また、そこで若い侍 JPAPN の選手と積極的にコミュニケーションをとり、惜しみなくアドバイスをし、監督から「ダルビッシュ JAPAN」といわれるほど信頼され、自分の調整を度外視してまでチームのために献身的に動くその姿に、さらに感動を覚えました。実際、今回の大会では、実力等を考えると、彼の残した結果は満足いく成績ではなかったと感じている人もいるかもしれません。しかし彼は、チーム内での大きな存在感のもと、たくさんの人々に大きな感動を与えたのではないでしょうか。たくさんの人々が、彼なしで世界一はなし得なかったと感じているのではないでしょうか。彼こそが「結束力」を高めた一番の選手です。

さあ皆さん、夢を語りましょう。そしてその夢の実現のために努力をしましょう。その努力は君たちを大きく成長させることとなるでしょう。君たちが大きく成長するには、君たちの努力以外にも必要なことがあります。君たちのすぐ隣にいる仲間。その仲間も重要です。自分の成長とともに仲間の成長も祈りつつ、仲間とともに努力する。仲間のために、ときには自分が汗かき役となり、ときには悩み、支え合いながら、君たちみんなで努力をする。そしてみんなの成長を楽しみにする。そのような二年間にして欲しい。キーワードは「結束力」。36 期生が一致団結し、学習に、学校行事に、部活動に、その他の学校活動に活躍することを期待しています。これからの一年、君たちが希望の光をしっかりと見つめながら、仲間と結束して行う本物の努力を見てみたい。どのような成長をするか。そばで見守らせてください。